

7月になりました。

7月も中旬関東近辺では「お盆の季節」です。このところまず迎え火やナスやキュウリで作ったお飾りなんかトンと見られなくなりましたね。私の子どもの頃にはお盆のお飾りを作るのは子どもの役目でした。この文章を読んでお飾りの形が頭に浮かんでくるのは昭和の人です。これ何にみえますか？わからない方！ネットでググってくださいね！



お盆は亡くなった方（祖先とも言います）が現世に帰還する期間という事です。その真偽は別にその間現世のも者は「その存在」を意識し「死と生」を少し身近に感じます。が、父の祖母の話が私が聞いて共感する事象はありません。がこの祖母の存在は重要です「父の祖母が存在しなければ今の自分は存在しない」これにより彼女は完璧な存在です。つながりが生き物を司っています。連鎖の形は様々。ですが「つながる・つなげる」が重要です。

リゾーム型という地下で茎をのばし互いにつながり生育する植物があります。竹やジャガイモ等が身近なものです。この「リゾーム」という形態を比喻として社会や人の在り様を示した人たちがいます。ドゥールズさんとガタリさんの「千のプラトール」という書物です。成長の考え方は長らく杉の様にお日様に向かい真っすぐ育ち、頂点を下部組織根っこが支えるツリー型が主流とされ、「社会の常識」となり、それなりの成果もあげましたがインターネット環境やグローバル化という技術革新が距離を超え新たなつながりを生み出し、個体の独立性や特異性を保ちそれを基盤とし縦横無尽につながり連携するリゾーム植物の様な力が主流になりました。それは世界規模の事でとどまらず

「地域」という狭い社会でも必要なシステムだと私は考えました。

当団体の目指す地域それはリゾーム型地域連携。一人1人が個の成長と独立する為の地域社会「リゾームコミュニティ」です。それを目指し15年活動してきました。今この時コロナ禍や差別などで人が分断されて来ていると危機感を持つのは私だけではないと思います。

それだからこそ21世紀人として今、その目を見開けばきっとその法はあります。抱擁や接触はできなくても、「つながり会いたい」という根底にある気持ちを表せばきっと伝わります。

リゾーム型は強いんです！！竹の生える土地は地震に強い。ドクダミなんか、も引き抜いてもまたすぐ現れますでしょ！私たちはつながり続ける為は今を生きている生物の一つです。環境に対応し、しぶとく生き抜いてやろうじゃありませんか！プロップKとはラグビーのポジションの様に支えあい地域の中であちこちに茎をのばしコロナ禍でもモゾモゾと活動中です。どうぞ皆様つながってきてください！

自宅の仏壇にお供えものをした後、事務所の片付けものをしていたらもう10年近く前に報告会用に作ったプレゼンボードを見つけました。コロナ禍の新しい生活にまだなじめない所もありますが、リゾーム思想と話したことのない曾祖母の写真が私を少し元気にしてくれた R2年7月13日です。

